

# たきのうえ を思う

北見市在住  
山尾 幸正 さん



## 教員人生スタートの地

一九七七(昭和五二)年、函館本線、宗谷本線、名寄本線、渚滑線と乗り継ぎ、新採用教員として滝上小学校に着任しました。ここから私の教員人生がスタートしたのです。この頃は新卒者が多く採用された時代で、滝上小には、五十嵐和幸君(函館市在住)、上西雄司君(旭川市在住)と共に三人が採用されました。

当時の児童数は三五〇名ほどで、各学年二学級ずつありました。私が初の担任をしたのは二年竹組でした。休み時間にはとにかく一緒に遊んだことを

思い出します。新米教師で指導力は大変未熟でしたが、素直な子どもたちや温かく見守っていただいた保護者の皆様のお蔭で私自身が成長させていただきました。



六年間の在職中に校舎が改築され、明るく近代的な環境で学習できるようになりました。

## リトル滝上野球少年団

これまで指導されていた先生が転勤したため、その後任として指導を引き受けることになりました。当時は父会がなく、運営に当たっては団長であった秋山孝一さんやスポーツ店主の小林正さんに大変お世話になりました。ユニフォームの新調にもご尽力いただきました。夏休み中に、町内の小規模校をお借りして合宿を行ったことは貴重な体験です。食事作りには、秋山团长さんの奥様やお嬢さん、さらに、お嬢さんのお友達や家内にも手伝ってもらいました。練習だけでなく、夜には盆踊りや花火大会で地域の人たちや保護者の皆さんとの交流もできました。

残念ながら各種全道大会に出場させてあげることができませんでしたが、中湧別野球少年団との代表決定戦で、最終回までもつれたしびれる試合は今でも鮮明に蘇ってきます。

当時の団員の一人であった相馬一之君(ロスアンジェルス授業補習校で教員を指導する文科省派遣教員)が、北見市内の小学校教員として少年野球の指導に関わっていることを知った時は、後継ぎができたようで嬉しい気持ちになりました。

## スキー検定

私の出身は滝川市で、雪の多い町でしたから、子供のころからスキーには馴染んでいました。しかし、基本を習ったわけではなく我流で滑っていました。冬が近くなつたある日、先輩の曾我部広美先生(紋別市在住)から「この町はスキーが盛んだから、小学生でも一級を持つている子がいる。山尾君も検定を受けた方がよい」とアドバイ



スをいただき、挑戦することにしました。曾我部先生には紋別など検定会場

まで送迎していただきました。当時郵便局に勤務されていた木村忠幸さん(北見市在住)には技術指導でお世話になりました。お陰様で二年かけて一級を取得することができました。このことは、その後の転勤先でも大いに役立つたものです。

## 再スタート

私は、北見市立中央小学校を最後に今年の三月をもって定年退職いたしました。滝上小学校を皮切りに、八つの小学校と北見市教育委員会、オホーツク教育局で行政の仕事も経験しながら、三十六年間の教員人生を終えました。滝上は、教師としての使命感、地域社会の一員としての在り方など、社会人としての学びの原点の地だと思っております。滝上という地や人との出会いに心から感謝しております。

現在、北見市教育委員会の嘱託職員として、いじめ・不登校対策の仕事をしています。滝上時代の初心に帰って再スタートを切ったところです。

